

令和3年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画)

【市町目標】

○「令和の四改革ver.3」の推進により、すべての子どもの学ぶ力の向上を図る。

【学校 目標】

○豊かな心の育みと学ぶ力の向上に向けて、ほめ方を工夫し、深い学びを生み出す取組を進める。授業での「きっかけの問い」「手立ての問い」「目標に迫る問い」の明確化をもとに、議論する授業展開の充実を図る  
 ○主体的対話的な授業づくりの推進と家庭学習の充実のための取組の推進を図る。  
 ○安定した学習規律のもと、基礎基本の習得、応用発展への主体的・継続的な取組、健康で安全安心な生活リズムの確保を図るアクティブラーナーを育成する。考動タイムを活用し、学校での学びを家庭学習に接続する。

【現状と課題】

○視点1 学習規律は安定している状況であるが、読み解く力と家庭学習に関して支援を強化する必要がある。ICT機器の利用についてはプログラミング学習の導入に伴い、使い方や内容を工夫する必要がある。グループ討議については定着しているが全ての教科で設定できるようにする必要がある。  
 ○視点2 道徳教育・人権同和教育に力を入れてきた経験を生かし、我が校の課題である自尊感情の醸成を目指すとともに、学びを深めあう機会と学びを確認しあう場の設定を図る。  
 ○視点3 人権同和教育・特別支援教育・生徒指導をの3本柱を軸とする教育活動を充実させる。また、老上学区は校種を超えて学び合う学区校区研修の機会に恵まれている。校区研への参加の意識を高揚させるとともに校内でのOJTの充実を図る。

取組		
視点1	視点2	視点3
学びを実感できる授業づくり	学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	子どものために一丸となって取り組む学校づくり
<b>【取組事項】</b> ○安定した学習規律のもと、基礎・基本の習得とその応用・発展の取組を継続するとともに、考動タイムの充実により学びを家庭学習に接続し、読み解く力のスパイラルアップを図る。 ○ICT機器の適切な活用により、一人ひとりの学びの状況に応じた指導を充実させる。 ○グループ討議の時間を授業の中に設定し、主体的・対話的で深い学びの実現につながる活動の蓄積をめざす。	<b>【取組事項】</b> ○道徳教育・人権同和教育を推進し、自尊感情の醸成と互いに認めあい高めあえる集団づくりをめざす。 ○主体的に課題を見つけ、意見を交わし、課題解決に向けて学びを深めあう機会と学びを確認しあう場の設定を図る。 ○自治的な活動の充実により、集団の質を高めることを意識させ、共感的な人間関係を築く。	<b>【取組事項】</b> ○「考動」を合い言葉に、人権同和教育・特別支援教育・生徒指導を柱にした教育実践を全教職員でやりきる。 ○コミュニティスクールの有用性を基盤に、地域の教育力を活用するとともに、活動の活性化を常考する機会を設定する。 ○校内はもとより老上学区校区研修に積極的に参加し、校種を超えて学びあう姿勢を培う。また、相互に的確な情報共有を継続的にを行い、良好な連帯感を育むようOJTを推進する。
その他 取組事項 ○学びスタイル:考動タイムによる家庭学習への接続 ○学校図書館:学びの深まりステーション		

取組の評価

※プランに示した数値目標は、県教育委員会の取組の指標です。学校の評価指標は、それぞれの課題等の状況に応じて設定することが重要です。

	取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
全体				
視点1	○安定した学習規律のもと、基礎・基本の習得とその応用・発展の取組を継続するとともに、考動タイムの充実により学びを家庭学習に接続し、読み解く力のスパイラルアップを図る。 ○ICT機器の適切な活用により、一人ひとりの学びの状況に応じた指導を充実させる。 ○グループ討議の時間を授業の中に設定し、主体的・対話的で深い学びの実現につながる活動の蓄積をめざす。	○学校評価アンケート「学校の授業はわかりやすく、楽しい。」の項目で80%以上の肯定的回答を目指す。 ○学校評価アンケート「電子黒板やタブレットを使った授業はわかりやすい。」の項目で80%以上の肯定的回答を目指す。		
視点2	○道徳教育・人権同和教育を推進し、自尊感情の醸成と互いに認めあい高めあえる集団づくりをめざす。 ○主体的に課題を見つけ、意見を交わし、課題解決に向けて学びを深めあう機会と学びを確認しあう場の設定を図る。 ○自治的な活動の充実により、集団の質を高めることを意識させ、共感的な人間関係を築く。	○学校評価アンケート⑧「道徳の授業では、感動したり、いろいろな考えに気づかされる。」の項目で80%以上の肯定的回答を目指す。 ○学校評価アンケート「自分のことが好き。」の項目で60%以上の肯定的回答を目指す。		
視点3	○「考動」を合い言葉に、人権同和教育・特別支援教育・生徒指導を柱にした教育実践を全教職員でやりきる。 ○コミュニティスクールの有用性を基盤に、地域の教育力を活用するとともに、活動の活性化を常考する機会を設定する。 ○校内はもとより老上学区校区研修に積極的に参加し、校種を超えて学びあう姿勢を培う。また、相互に的確な情報共有を継続的にを行い、良好な連帯感を育むようOJTを推進する。	○教職員自己評価「教職員の人権感覚を磨く取組がなされている。」の項目で自己評価3.3を上回る。 ○教職員自己評価「教職員のニーズをとらえた学校課題にかかる校内研修に、計画的に取り組んでいる。」の項目で自己評価3.2を上回る。		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

今年度の取組の課題

--